

# いもこじ

第56号  
【年3回発行】  
日置地区  
社会教育振興会  
〈事務局・編集〉  
鹿児島教育事務所

## 心豊かで充実した人生、潤いと活力のある郷土づくり

本大会が、11月25日(土)、日置市伊集院文化会館において、430人の参加のもと盛大に開催されました。

### 開会行事

中屋謙治会長(いちき串木野市長)が開会のあいさつを、永山由高日置市長が祝辞を述べられました。

## 日置地区生涯学習推進大会・日置市生涯学習推進大会

【主催】日置地区社会教育振興会 鹿児島教育事務所 日置市 日置市教育委員会 【共催】いちき串木野市 いちき串木野市教育委員会



県において受賞された方々の表彰伝達も併せて行われました。

### 受賞 おめでとうございます

【全国・九州・県表彰】※敬称略

★日本PTTA全国協議会会長表彰

○草野 勝徳(日置市)

○久富木 良(日置市)

★九州フロックPTTA協議会表彰

○下池 真(日置市)

★県文化財功労者表彰

○帖佐 秀人(日置市)



### 講演

#### 音楽でつながるまちとまち

森田 良平氏

森田良平氏は、鹿児島市出身で国内外を飛びまわるプロのコントラバス奏者です。コロナ禍の時は、大分県竹田市地域おこし協力隊員、音楽企画プロデューサーとして音楽を使ったまちづくりを展開し、TV「新窓をあけて九州」でも特集されました。これからも音楽の魅力を伝えることで、「まちづくり」に活かしていきたいと語っていました。

当日は講演と併せて、ピアノ・ストリート音楽などの演奏もありました(写真)。クラシック音楽の他に竹田市にゆかりの滝廉太郎の「荒城の月」や歌謡曲の「糸」など30分以上の演奏に、参加者は時間が経つのを忘れて聴き入っていました。



### 日頃の学習成果の発表

#### (1) 舞YOU(日置市)

日吉町のグループ「ホームゆう」の入居者で結成されています。地域の催しや医療・介護施設等の訪問を行っています。見ている人を楽しませる舞踊でした。

#### (2) レッツフワ(日置市)

日置市中央公民館初心者講座のグループです。心地よい音楽と南国の明るさなどフラ独特の魅力を存分に披露していただきました。笑顔で優雅に踊る姿に多くの人が元気をもらいました。

#### (3) 大人のケンハモ教室(いちき串木野市)

いちき串木野市自主講座グループです。健康呼吸法を心がけながら鍵盤ハーモニカを楽しく演奏しています。「時代」「涙のトッカータ」など60年前のヒット曲の演奏に大きな拍手が送られました。

#### (4) コールオリーブ(日置市)

伊集院地区公民館講座で集まったコーラスメンバーです。多くの人に歌い継がれている「椰子の実」や「野に咲く花のよう」など3曲、素敵なおハモニー、コーラスを披露していただきました。



### 日和下駄

#### 「くいまがせんづる」

三島村教育委員会  
事務局長 佐藤 央隆



三島村は、枕崎と屋久島の中間の洋上に並び、竹島・硫黄島・黒島の三つの小離島からなる小さな村。役場が鹿児島市内にあるので、島に行くためにはフェリーを使うしかないのだけれど、故郷の硫黄島に降り立つ度にお年寄りから「ば!硫黄島弁をしゃべる人間が来てうれしか」と声をかけられる。そう言われると悪い気はしないから訛りにも拍車がかかり独特の言い回しを無理に使用したりして一人悦に入っていた。

ところが先日、鹿児島島に住む叔父が「んにゃ、くいま(車)が、せんづるつじやね」と言ったのを聞いて意味がわからずにいると、どうやら「せんづる」は「千ほど連なる」が語源の「滞っている」を意味する硫黄島の方言で、「ひどい渋滞だ」と言いたかったんだとわかり、初めて聞く硫黄島弁にびっくりした。

私のつたない硫黄島弁でさえ喜んでくれているのだから、「せんづる」を使ったら島のお年寄りはさぞ喜んでらるうなあと考えているが、島ではまず車の渋滞は起こらないので、どうしたものかと悩む毎日である。





# 鹿児島地区子ども会大会、指導者・育成者研修会兼家庭教育支援キャラバン(親子すくすくフェスタ)

12月3日(日)、本研修会が日置市東市来文化交流センターにおいて開催され、230人の地区内の子ども会員、指導者、育成者等が参加しました。今回は、県教育委員会主催の家庭教育支援キャラバン「親子すくすくフェスタ」もあわせて開催されました。

## オープニング

研修会は「モアナラニ」の楽しく優雅なフラダンスの踊りで幕を開けました。

## 開会行事

松下良照地区子連副会長のあいさつに続き、奥善一日置市教育長の祝辞がありました。

表彰式では、5団体が地区表彰を受け、全国・九州県の伝達表彰も併せて行われました(左表・写真)。



## 子ども会活動・体験発表

★4年ぶりの実施となった日置市青少年海外派遣事業は、アメリカ西海岸、ワシントン州オークハーバー市等でのホームステイや異文化体験を通して、学んだことなどを発表しました(写真)。



★日置市鶴丸地区子ども会は、高齢者施設との合同の運動会や伝統行事、地域美化活動など異年齢の交流を年間を通して取り組んでいるという発表でした。

★いちき串木野市「アドベンチャーinこしき島」の発表は、雄大な自然の中で交流を深め、様々な活動に挑戦し自己を磨き、強い心を養うという目的を達成し、最高の思い出ができたという内容でした。

★弟子屈町交流は旧東市来町で平成2年から続いている交流事業です。雄大な北海道で学んだ貴重な体験や、永山市長が25年ぶりにホストファミリーに再会できたエピソードなどを発表しました。

いずれも子供が主体的に取り組んでいる様子が伝わる素晴らしい発表でした。



### ものづくりワークショップ



## 親子すくすくフェスタ

青少年研修センター、南薩少年自然の家、奄美少年自然の家、国立大隅青少年自然の家、鹿児島市立少年自然の家、出水市青年の家、霧島自然ふれあいセンター、県保健体育課、県立博物館、県立図書館



### 親子ふれあい体験



## 竹島の子供たちが 天皇后両陛下に謁見

令和3年、三島竹島学園の子供たちは、赤坂御所の天皇后両陛下と学園をオンラインでつないでご懇談をさせていただきました。

これを機に、昨年10月の「燃ゆる感動がごしま国体」の開会式当日、照国神社で行われた両陛下下行幸啓による提灯奉迎の祭典の中で、三島竹島学園の3人の子供たちが両陛下へのメッセージを読むという大変貴重な機会を頂きました(写真)。



さらに、その後、ホテルの一室で両陛下に直接謁見する機会まで頂きました。緊張しきりの子供たちに、その緊張をほぐすように優しく笑顔で、また、終始子供たちの目の高さで語り掛けてくださる両陛下のお姿がとても印象的でした。子供たちが退室する際も、両陛下は何度も何度もお手振りをして見送ってくださいました。

子供たちは、控室に戻るやいなや待っていた家族に興奮冷めやらぬ様子でその感動を伝えたそうです。誰でもが経験できないようなことを二度も経験し、その大役を立派に果たした子供たち。生涯忘れられない思い出となったことと思います。

三島村教育委員会くわが町から



ふるさとを愛し、夢や志をもち、心豊かにたくましく子供を育てるPTA活動をどうあげたいか  
県PTA研究大会・県PTA活動研究委嘱公開 いちき串木野市大会

12月2日(土)、いちき串木野市市民文化センターで標記大会が開催され、310人の参加がありました。

大会は、いちき串木野市を中心に活動されているエイサー団体の創作太鼓衆「琉苺華」の迫力ある演舞で幕を開けました。

開会行事

県PTA連合会太田敬介会長が開会のあいさつ(写真を、地頭所恵県教育長(県教育庁社会活動部長)、教育課中村智子課長代読)、いちき串木野市中屋謙治市長が祝辞を述べられました。

研究発表・協議

生冠中学校区小中PTAは、挨拶・言葉遣い、食育、「メディアアストップ9」など5つの共通実践事項を設定して実践したこと、PTAと地域の繋がりを深める年2回の「生冠の子供の教育を考える会」などの取組について発表されました。

生冠中学校PTAは、生冠中OB参加の親子奉仕作業や文化祭でのPTA参加、そしてPTA活動の見直しなどについて発表されました。生福小学校PTAは、特にP戸数の減少に伴う行事の廃止や規模縮小



そして、専門部編成の見直しなど、持続可能なPTA活動についての工夫・改善を発表されました。各PTAとも、子供たちのために地域と連携・協働を図り、地域力を生かした特色ある活動でした。

講演

九州大学客員教授 加留部 貴行氏  
いっしょにやる、ということこそ変化と多様性に向けたPTAのこれからの姿とは何か、人と人をつなぐフアシリテーション力は各分野で今、改めて注目されています。先生にはその必要性や概論について講演していただきました(写真)。



特に、「聴く」行為は、相手を「聴く(ゆる)す」行為であり、「対話」「聴く」「話す」という掛け算になる、「ホウレンソウ」とともに「ザツソウ」も必要という話にうなずく人も多かったです。PTA活動で「対話」を大事にしなごらんとつながりをいかにして仕組むか、とても参考になる講演でした。

「ホウレンソウ」とともに「ザツソウ」も

- 報告 → 「過去」を伝える
- 連絡 → 「現在」を伝える
- 相談 → 「未来」を考える
- ホウレンソウ + ザツソウ → 「旬」を聴く
- 雑談 → 「共有」と「共感」
- 相談 → 「探究」と「創造」



取組を発表する各学校のPTA

東市来・日吉・吹上地域

「ふるさと学寮」

令和2年に日吉学園義務教育学校が開校するまで、日吉地域単独で毎年開催していた「ふるさと学寮」事業を、昨年からは東市来・日吉・吹上の3地域合同で開催しています。

3地域、6小学校と1中学校から計38名を迎え入れて12月10日(日)からの3泊4日、子供たちは家庭を離れ、異年齢集団による共同宿泊生活をしながら通学します。自主性や協調性など社会性を身に付け、家族への感謝や思いやりのある人間性を培っていきます。

【調理実習】

子供たちは食材を買い込み、「せつべとべ ひよし館」で調理をしました(写真)。メニューは左表。

さつまいもとベーコンの炊き込みご飯、肉団子と野菜のスープ、それぞれ2種類のサラダとデザート

調理の指導は、今年も日吉加工グループの方々にしていただきました。普段は日吉町内で栽培された食材を原材料に、豆腐やお味噌などの加工品を製造・販売していますが、毎年、学寮に参加する子供たちの為に朝早くから朝食、そして夕食を人数分作ってくださり調理実習の時には、包丁の使い方など多くのことを子供たちに教えていただきました。



日置市教育委員会 くわが町から

「ALTとの研修活動」  
授業の時の姿とは、また少し違った特別な体験ができるのが、ALTとの研修活動です。日吉総合体育館で、レクリエーションをしました。

「Vocab Building」というゲームを通して、英語でのコミュニケーションを行い、ALTの先生と実際に触れ合う貴重な時間を過ごすことができました。寮で一一緒に夕ご飯を食べる間も、子供たちは積極的に会話を楽しむ姿があり、両者ともに良い経験になったと思います。

【人権研修】

「スイミー」の本を朗読してくださったのは、吹上支所教育振興課の新屋盛美社会教育指導員です(写真)。

仲間との協力や個性について、考え直す良いきっかけとなりました。また、在職時代の実体験を交えて、人権問題について、子供たちに語り掛けるように、ご指導くださり、真剣な眼差しで研修を受けていました。

その他にも、朝の起床、洗濯、食器の片付けや掃除等、集団生活のルールを守る大切さを学びながら他校の児童生徒と交流ができたようです。「来年、中学校が一緒だね」とも心強い言葉も聞くことができました。



いちき串木野市教育委員会くわが町から

### 誰かに寄り添うために 自分も相手も大切にする方法 「家庭教育学級全体研修会」

11月11日(土)の午後、家庭教育学級全体研修会として、標記テーマで講演会を実施しました。

講師は、鹿児島県出身の医学博士高橋聡美先生です。高橋先生には、令和4年度日置地区PTA正副会長等研修会で講演していただき、大変好評で、もう一度聴きたいという声が多かったので、昨年度は、家庭教育学級全体研修会でもお願いしました。コロナ禍の中で実施には不安もありましたが、直接、対面講演と各学校をオンラインでつなぐハイブリッド方式で実施しました。

本年度は、健康増進課の協力をもらい、一般市民にも呼び掛け、17人を含む10人の参加者がありました。ほとんどが、各学校の保護者で人気のほどがうかがわれました。

先生の話は、保護者目線で、より具体的に分かりやすく、参加者が、うなずきながら聴いている姿が印象的でした。ややもすると、子供が話した状況を、どうにかしたいという気持ちが強いため、指導を先にしがちになる親が多いようです。



講師の高橋聡美先生

テストの点数が悪かった時の例、「勉強が足りないのよ」(評価)「毎日勉強しなさい」(指示)「塾代がもつたない」(脅す)など

どこの家庭でもありがちな会話ですが、子供に寄り添うコミュニケーションスキルが大事だと強調されました。そのためには、

「悪かったの」(オウム返し:受容)と「何が、どこが難しかった?」(傾聴)など

アドバイスをジャッジ、決めつけないことの大事さを話されました。

また、YOUメッセージ(「あなた」が隠れた主語になっている。非難や決めつけになりやすい伝え方)より、Iメッセージ(「わたし」を主語にして自分の気持ちを伝える)の方が受け入れやすいことも話されました。

今後、講演会や事例発表などいろいろな手法で家庭教育の充実を図っていききたいと思えます。

なお、当日の午前中は土曜授業の一環として市来小学校において、児童に「SOSの出し方」と題して、分かりやすく



具体的にお話をされました(写真)。

十島村教育委員会くわが町から

### 口之島釣り大会 口之島子ども会

「よしっ、かかったあ、釣れたあ!」毎年11月に口之島では、「海釣り大会」を実施します(写真)。「最速賞」「大物賞」「大量賞」などの賞が設けられ、子供たちもそれぞれの賞を目指して、とても盛り上がりがあります。



口之島小中学校には、山海留学生も多く、海釣りが初体験という子供もいます。初めは餌となるエビを針につけるどころか触るのも嫌がって

いる子供もいましたが、楽しさが分かり、夢中になっていました。この他にも、「追い込み漁体験」や、地元での「大名筍採り」、自分たちで田植え、稲刈り、脱穀したもち米を使った「餅づくり体験学習」など、都会では減多にできない体験活動がたくさんあります。

口之島の豊かな自然や地元の方の協力、温かさが、子供たちの心を豊かにして育ててくれます。

口之島では、「子ども会」の協力を得ながら行う教育活動を位置付けています。そうすることで子供たちが参加しやすくなることや保護者の負担も減り学校職員も全員で参加できます。これからも、島全体で子供たちの成長を見守っていききたいと思えます。

### 国指定文化財と巡る薩摩川内市

1月26日(金)の日置地区文化財担当者等研修会は前々日に大雪に見舞われましたが、当日は好天に恵まれ、予定通りに実施できました。

今回は薩摩川内市を中心に、国指定の薩摩国分寺跡、新田神社、可愛山陵、川内歴史資料館をたどりましました。

川内歴史資料館での学芸員による詳細な解説の後、薩摩国分寺跡史跡公園では、観光公認ガイドから、薩摩国分寺の歴史や「薩摩国分寺塔跡」について丁寧に説明をしていただきました。



薩摩国分寺跡での研修

また、新田神社には、73面の古鏡が保存され、そのうち3面が国指定を受けているとの説明がありました。北薩地区の歴史を新たに知る有意義な研修になりました。

社会教育情報誌「いもこじ」は、県教育庁鹿児島教育事務所ホームページからご覧いただけます。



### 編集後記

元日に起きた「能登半島地震」で被災された多くの方々に謹んでお見舞い申し上げます。一刻も早い復興を願うばかりです。「いもこじ」はこれからも地域の応援団として少しでも役に立てればと思っております。(事務局 田中)